

○小沢さんで、新規巻き返し

小沢さんの新代表就任で、民主党もやっと新しい出発ができます。「自分自身を変え、民主党、そして日本を変える。」という小沢さんの意気込みに私も一票を投じました。

菅さんが代表代行、鳩山さんは、そのまま幹事長に留まることになり、3人のトロイカ体制がうまく機能して欲しいと思っています。私の関係では、国対委員長長の渡部恒三さんは留任となったものの私たち議運とコインの裏表でやってきた、川端、平野両国対委員長代理が変わってしまいました。実務をこなす上では、なかなか大変です。

行政改革、医療改革という大きな法案が衆議院審議の真っ只中です。これら二つの法案に共通した大事な論点があります。

天下り官僚が業界団体の実質のトップに居座り、官庁主導の護送船団行政をやりながら、一方で、無鉄砲な規制緩和で何でもありの競争をあおってきました。4点セットとして取り上げた問題は氷山の一角です。日本の市場は競争の実態が不公正で一部の寡占状態が目に見える姿がはっきりしてきました。改革を、人減らしや税金の節約だけに矮小化するのは間違っています。この護送船団行政をぶち破って、正しい競争ルールをつくること。さらに市場を生活者の立場からピシッと監視できる事後チェック型の行政組織を作ることです。このことに焦点をあてた時、今回の政府法案の空虚な中身が見えてきます。マスコミは、この点をしっかり認識し、大事な論点を国民に知らせるべきです。

○教育現場の相談から

学校現場の不祥事の対応について、親の立場からいくつかの相談がありました。子供たちのプライバシーにもかわるので、事件の詳細は省きますが、関係者との話し合いを重ねる中で共通した問題点があることに気がつきました。

問題が起きたときには、加害者の処分はあるものの、被害者の子供たちの心の傷やその後の互いの人間関係に対するケアが職場として取り組めていないこと。学校の

管理職に、教育者としての資質だけではなく、危機管理の手法や組織管理のプロとしての教育、訓練の必要があること。子供たちの中で起きている問題の把握が、初期の段階でしっかりできる環境をつくること。子供と親、そして教師との関係を解きほぐすための第三者の役割もかねて、カウンセラーの積極的な活用を考えるべき、等々。

先生の「注意」がきっかけでした。子供の集団は仲間を守るのではなく、逆に「いじめ」が始まる。それに親が絡んで、全体が対立の構図と化し、陰湿ななじりあいになる。「中川さん、相談にのって欲しい」と持ち込まれた事例は、そんな状況だったと思います。

管理職は、こうした先生を熱血先生としか見ていなかった。情熱が行き過ぎて摩擦が起きるとする説明では、周りの納得は得られない。教育委員会の担当者は、「先生の一生懸命を分かって欲しい」と繰り返します。しかし、プロは、一生懸命という言葉に逃げてはいけないものだと思います。

○桜の花を惜しんで

この季節、夜の最後の会場から九段宿舎までは歩いて帰ることにしています。お堀端の一等地に位置する英国大使館から千鳥ヶ淵に至る道筋が私の一番のお気に入り。樹齢300年を超えるダイナミックな枝ぶりから目の前にすごい迫力でせまる桜もすばらしいが、それを超えてお堀をまたぎながら向こう岸に浮かび上がるように広がる花の雲のたなびきも、幻想の世界です。遠近の2重奏がアツという間に季節の終わりに近づくと、風の中に桜花の雨が降り注ぎます。あったかくて、どこまでもやさしい花びらの中を歩くのは、最高です。

千鳥ヶ淵から、靖国通りを超えて、神社の境内に入るところで、われに返ります。ここは、花よりダンゴの世界。好物のジャンボたこ焼き、いか焼き、とうもろこしや焼きそばは定番。サザエやあわびなど8種類もの貝の串焼き、ステーキ肉、大きなたこが目立つおでんなど、みなが露天レストランで楽しそうに酒盛りなのです。誘惑に負けて、あっちこつちと立ち止まってしまいます。